令和4年度　藤島高校　学校評価書

項目	具体的取組み	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習指導 研修	生徒一人ひとりの能力や個性に配慮した上で、生徒の主体性に基づいた教育活動を推進する。	教員の取組指標および生徒の満足指標共に目標値を越えていることから、概ね生徒の能力や個性に配慮した上で、生徒の主体性を重視した教育活動が実践されており、生徒も授業や課題に主体的に取り組んでいる。 また、複数教科に渡る自主的な教員の研究会が行われるなど、意識・意欲の高まりも伺える。	教職員については、今年度同様に研修や公開授業を充実させ、意識の高揚を図っていく。生徒についても授業・LH・学年集会等など様々な機会を通して、主体的な学びの意識づけを継続的に行っていく。
	「授業評価」を踏まえて、授業内容の改善・充実に努める。	教員の取組指標および生徒・保護者の満足指標共に目標値を越えていることから、教員一人ひとりによる授業評価の分析等を通して、教員の授業改善・充実の取組が定着している。 1、2学年においては、約1割の生徒が「自らの学習を調整すること」に課題があると考えており、個別の指導が必要であると考えられる。	授業評価等をそれぞれの教員が分析したり、公開授業で情報交換・共有を実施したりして次の指導に生かしていくサイクルを形成していく。必要に応じて個別面談を行い、きめ細やかな指導を行う。
情報	校内ネットワークおよび情報機器の充実と利用促進を図る。	教員・生徒ともに目標値を大きく上回っている。教員向けの授業改善のためのICT機器の使い方や採点システム等の研修会を複数回実施し、生徒へのラーニングシステムの活用法の指導等を行ったことで、校内ネットワークおよび情報機器が効果的に運用されていることが伺える。	より分かりやすいネットワーク環境を設定し、指導者への研修会を通じて利用促進を図る。 故障・老朽化に伴う機器の不足、パフォーマンスの低下が予想されており、機器の整備・管理に注力する。
生徒支援	服装や、スマートデバイスの使用などに関して、生徒が自律的行動がとれるように支援する。	教職員・生徒とも目標値を上回っているが、生徒の「どちらかといえばいいえ」「いいえ」を合わせると3年生10%、2年生15%、1年生20%になる。学年が進むにつれ改善されている点は良いが、1年生の5人に一人が自律的に使用できていないと考えると何か対策が必要だと考える。	LH等を使って意識向上に努めるとともに、生徒会活動を通して自立した行動を促す取り組みを行っていきたい。
	いじめの未然防止と早期発見、いじめの解消に学校全体で取り組む。	目標値の100%は高い設定ではあったが、達成できた。今年度はいじめの件数も少なく、普段から多様性を受け入れるように指導している効果があらわれていると考える。	この状態を継続していきたい。
進路支援	入試情報の提供、生徒の学力分析、面談や進路行事などによって必要な情報や助言を提供し、生徒が主体的に進路目標を設定し、自ら工夫して学び続けるよう支援する。	教職員の98%が進路支援に十分に取組み、生徒の93%が進路について十分に考え、自ら工夫して学習に取り組んでいると回答している。また、保護者の96%が本校の進路支援に満足していると回答している。このことから、本校の進路支援体制は全体的に整っているといえる。進路行事の時期や内容などを検討し、1、2年生の「1　はい」の割合をさらに高めたい。	進路支援部、学年会、教科会との連携を密にし、多様化している進路希望や入試システムに応じて、生徒一人ひとりにきめ細かい支援を行う。また、進路行事、進路情報、そして生徒の学力を分析して、見通しを持った進路支援を行う。
保健管理	担任、保健部、専門家の連携により、健康管理と教育相談活動を充実させる。	生徒の悩みに適切に対応している教職員が、95%から100%になった。コロナ関連により、生徒の体調面やメンタル面において、保護者と密に連絡をとらなければいけない場面も多く、部活動での日々の体調把握も重視した結果であると思われる。	感染症防止対策を継続する。今後も、生徒の些細な変化に気を配り、教員同士の情報交換、他部署や外部機関との連携を図り、生徒の心身の健康管理に努めたい。
環境美化	学校全体でゴミの減量化と環境美化に取り組む。	教職員のゴミの分別・リサイクルの徹底が、92%から96.6%となり、生徒も昨年より更にあがり97%であった。日々の清掃状況や、ワックスがけなどに取り組む姿勢もよく、学校全体として環境美化の意識が高いと思われる。古紙回収を活用し、燃えるゴミの減量化、行事等での再利用化の意識も高い。	清掃やゴミ分別の徹底を継続し、快適な環境で勉学、部活動などに取り組むことができるよう、必要な支援を行う。廊下のワックスなど、日々の清掃や生徒の手作業だけではきれいにできないところを、業者への依頼やその他手立てを考えていきたい。
保護者との 連携	保護者と連携して教育活動を行うために、PTA活動や連絡を充実させる。	教職員の100%、生徒の約92%が保護者への連絡を十分に行っており、相互の連携は図られていると考えられる。保護者に関しても、85%以上が教育活動や連絡を十分理解しており、学校の理解促進の取組みに満足している。昨年度同様、すべての項目が判定基準の目標値を超え高評価である。	学校の教育活動を十分理解していただくように、保護者への広報・連絡方法の改善の検討を継続していく。保護者への広報のために、PTAのホームページの充実につとめる。全教職員に、保護者と連携して教育活動を行うことの意義を常に意識するよう働きかける。
	同窓会や購買・食堂等の外部との連携や連絡調整を行い、教育活動を充実させる。	同窓会の取り組みに生徒の約93%が満足している。また、購買・食堂の環境や取り組みにおいても生徒の97%が満足している。今年度からの項目であるが、すべての項目が判定基準の目標値を超え高評価である。	今年度からの取り組み項目である。今後もホームページや校舎内の掲示板を活用して食堂メニューの案内をし、利用者増をすすめる。また、自動販売機の取り扱い商品を随時検討し、より利用しやすいように改善に努める。
図書・研究	学校設定教科「研究」に対し、生徒が主体的に取り組むことができるよう充実させる。	1～3年いずれの学年においても94～96%の生徒は活動に熱心に取り組んでいると回答している。満足度は最も高い2年生で92.2%、最も低い3年生で84.3%と目標を上回っている。一方で、満足度の低い生徒も見受けられる。更に手法の見直しを繰り返して、探究活動を充実させていくことが課題である。	先輩から後輩に研究をアドバイスする場として、校内課題研究発表会やブリッジ会を更に充実させる。高校におけるアカデミックリサーチの指導方法を部内で更に研究し、指導担当教員間で共有することを目指す。
	学校設定教科「研究」に対する全校教職員による生徒支援体制を充実させる。	学校設定教科は、担当者が定期的に打ち合わせを行いながら進めており、教職員の91%が学校全体の取組みとなっているとしている。昨年度を9%上回っておりより連携が進んでいるが、さらに連携を進め教職員全員が何らかの形で「研究」にかかわる体制にすることが課題である。	課題研究に携わる教職員を増やしさらに全校的な取組みとし、担当教員一人当たりの生徒数を減じることで質的充実を図る。また、外部人材と生徒の研究等を結び付けたり、分野をこえて担当教員間の連絡・打合せ等を行ったりすることで情報を共有し協働的な指導体制を構築する。
	図書館行事や広報活動を充実させ、生徒の読書意欲を喚起する。	教職員の読書指導の取組指標は88%となり、目標指数を上回り昨年度から9%向上した。図書館の活動によって生徒の読書への関心が高まったかという成果指標は64%と、目標指数は下回ったが昨年度より2%、一昨年度より14%向上した。課題としては、教職員の読書指導をより活発にすること、図書館と各教科との連携を密にすることが挙げられる。	教職員については今後も学年会、教科会との連携を深めながら、生徒への読書意欲を喚起するための働きかけを継続していく。昨年度から始めた、朝の静粛タイムに1年生全員に週1回読み物を配布する「アサドク」を継続し、今年度始めた2年生への配布も回数を増やしていく。
	SSH活動を通して、生徒の科学的な関心を高める環境を充実させる。	今年度からclassroom「すずかけAGORA（文化・図書・研究情報room）」の運用を開始し、文化・図書・研究情報の発信、イベント申込み窓口を一元化した。結果、イベント参加者は昨年度よりも増加し、本校が科学系イベントを活発に行っていると感じている生徒は89%と目標指数を大きく上回った。科学系イベントを更に活発に行うとともに、生徒への広報活動に更に力を入れることが課題である。	各種イベントの担当教職員が、縦割りの校務分掌の枠を超えて、ワンストップのclassroom「すずかけAGORA」運営により積極的に取り組むことを目指し、生徒の利便性を増して参加意欲を増進させる。